

令和4年度第2回釜利谷協議会議事録（11月18日開催）

【出席者】（委員） 小林正稔 しらかばこども家庭支援ステーション 副所長
小國 徹 横浜市立金沢動物園 園長
村上博史 横浜市立金沢中学校 校長
岡本裕子 釜利谷高等学校長
（事務局） 副校長 小林隆宏 教頭 角本賢一
総括教諭 小曲昭男（学校評価部会） 穂積啓之（SSE 部会）
穂積啓之（SLS 部会） 吉田真穂（学力向上部会）
矢島俊也（キャリア部会） 近藤純子（地域協働部会）

1 校長あいさつ

・ご多忙の中、本日このようにお集まりいただき感謝している。本年度2回目の開催になるが本日は本校の授業改善への取り組みの現状をご覧いただきたく、3つの研究授業を準備した。見学の後にご意見を頂戴したい。

2 組織的な授業改善への取り組みの見学

教科・科目	授業者	実施会場
地理総合	曾我部教諭	1年1組
情報I	森住・伴野教諭	情報室
英語コミュニケーションI	山川教諭	1年7組

3 協議 / 各委員より意見・感想

事務局：本年度本校では「生徒が主体となる授業づくり」をテーマとして授業改善に取り組んでいる。職員はこのあと振り返りと研究協議を行う計画になっている。本日見学いただいた委員に頂戴したご意見はその研究協議のなかで紹介させていただく。率直なご意見を願います。

村上委員：丁寧に生徒に向かい合っている姿が印象的であった。少人数展開の良い点でもあるのではないか。授業者の投げかけが「考えなさい。」で終わるのではなくしっかりと「答え」まで示されているのは生徒にとって安心できる授業展開だと感じた。Google Classroomも使いこなしている様子も見ることができた。

小國委員：落ち着いて授業が展開されている様子を見ることもできた。生徒の興味を引き付ける話し方がされていた。

小林委員：全体を一斉指導している中であっても、個別の学習の進捗を机間指導の場面を活用するなどしてひとり一人に承認を与えていただきたい。今の取り組みでいいんだよと。その積み重ねが、生徒が釜利谷高に入学してよかったと感じることに繋がるのではないか。

子どもは自信が持てるとガラッと変わるものである。

どの授業もとても工夫されていることが伝わってくる授業であった。しいてあげるならば、教えることに一生懸命になりすぎて、生徒とのキャッチボールが少し少ないように感じる場面もあった。指導案をこなさなければという気持ちが出てしまった。人前に立つ人間は演技者になればよい。更に学習内容を理解した生徒がそうでない生徒に教える形ができるとうよい。

村上委員：釜利谷高を受検する生徒の面接指導を行う中で子どもは大人と話したがついていけると感じることもある。日頃から生徒と話をし、話を聞くことが大切なのではないか。

岡本校長：貴重なご意見をいただき感謝する。この場に十分な時間をとることができずに申し訳ない。今後も、本校生徒の学びを支える授業づくりに邁進していく。
本日は、ありがとうございました。

4 事務局から

(1) 今後の日程

次回の釜利谷協議会は3月に計画している。日程が決まったらご連絡を差し上げる。

閉会